

五感で楽しむ里山の夏
自然体験キャンプ

@

なみ滝藤原園

平成25年8月8日(木) ~ 11日(日)



3泊4日の自然体験キャンプでの経験を活かし、子どもたちが立派な大人に成長すること、大きくなって学んだことや感じたことが社会で輝くため、また生きがいややりがいをもって心豊かに生きるために役立つことを願っています。

3泊4日の自然体験キャンプをスタッフの日記で振り返ります。

助け合う友情・挑戦する勇氣・物事をやりぬく情熱・支え合う思いやりを育てる

8月8日（木）：キャンプ初日

今年もなみ滝藤原園での「五感で楽しむ里山の夏自然体験キャンプ」がやってきました。小学3年生から6年生までの33人が、キャンプが好きでやってみたい、釣りやテント生活が楽しみだなどいろんな思いをもってキャンプに参加しました。

まずみんなが料理や食事をするためのテーブルやイスの準備。このキャンプでは参加するみんなが主役です。「お客さん」にならずに、自分たちでキャンプに必要なものを運んだり作ったり、身のまわりのことをします。カウンセラーの先生に教えられながら運んでいました。



つぎは食事です。使う竹のはしやコップづくり。先生が手本を見せ、小学生たちがそれにならって作ります。小刀など刃物は使い方に注意しないとけがをします。しかし、刃物も生活の中で欠かせないもので、生きる力をつけるために使う練習をします。竹細工は小刀でなく竹を動かしてけがをすることが大切だと学びました。なれない竹細工や小刀

に苦戦する人が多かったけど、がんばってはしを作りました。また、のこぎりで竹を切り、外側をなただけずってコップを作ります。みんな思い思いのコップを作っていました。

この後は昼食づくり。自分たちで料理を作ることにはじめての人が多く、作り方がわからなかったり、包丁や火の扱いがあぶなっかしい場面もありました。しかし、先生に教えてもらいながら、みんなで協力してつくりました。食べる前は「喜びと感謝とうやまいの心をもって



いただきます」とあいさつしました。これは食事をする時の大切な心構えを表すあいさつです。食べることはただ生きるため、栄養をとるためだけでなく、食べられることの喜びや苦勞して食材を作ってくれた人や食べ物に対する感謝の心を育てることです。

自分にごはんを食べさせてくれるよう働いて、育ててくれる親や食べ物を作った人へのうやまいの心を持つことです。そういう心をキャンプを通して考えて、身につけてほしいと願っています。

午後からはテント設営。テントはみんなで協力しないと建てられません。先生に建て方を教えてもらって、ああでもない、こうでもないという試行錯誤をくりかえしながら自分たちがキャンプ中に使う家を作りました。夕方は近くの「湖畔園」のおふるを借りて入り、汗を流しました。みんな旅館のおふ



ろに入れるということで喜んでいたので、ほかのお客様の迷惑にならないように入
りましょうね。

夕食はすきやき丼とすまし汁を作り、おいしくいただいた後はキャン
プファイヤーで歌の練習。初日の緊張や疲れからか始めはあまり声
が出ていなかったが、だんだん大きな声を出して歌っていました。歌の練
習のあとは天体観測。ひげじいこと吉田先生が星空についての話をされ、
みんなで金星や土星を天体望遠鏡で見て、感動していました。また、空に見える北極星や
夏の三角形、宇宙ステーション「きぼう」を見てもり上がりました。



8月9日（金）：キャンプ2日目

朝6時に起きて、6時半からラジオ体操。この後は西村先生の植物の話。なみ滝藤
原園にある植物の話をみんなで聞きました。この日は木には冬になると葉が落ちる
落葉樹という種類と、1年を通して葉がついている常緑樹という種類があるという話。
この話を通して植物に興味を持ってくれたらと思います。

朝食を作るときに虚空蔵山に登って食べる昼食も作りしました。朝食といっしょに
昼食を作るのは大変だったけど、一生懸命作りしました。朝食のあとはよいよ虚空蔵山



に登山。途中まわりにある木や草花を見て登りました。虚
空蔵山に入ると急な坂や石がたくさんある道などがあり
大変。それでもみんながんばって、はげまし合って登りま
した。途中の休憩時間には熱中症にならないように先生
からももらったあめやお茶で水分や塩分を補給。（この時
先頭を歩く先生が先に急な坂や石があるので気をつける
ように後ろに行く小学生たちに呼びかけると、伝言ゲームのように後ろに言われたこと
を伝えていました）

午後12時すぎに頂上に着きました
た！そこから見る景色は本当にすばら
しい！先ががけになっているので落ち
ないように気をつけながら、小さく見
える建物や車、出発した藤原園を見て
感動しました。ここで朝作ったおにぎ
りや鶏のからあげをみんなでワイワイ



言いながら食べました。山を登りきった後の昼食は特別においしかったようで、喜んで
食べていました。そして山に生えているタムシバという木の葉をかむ体験をしました。

かんだ時のかわった味に驚いていたようです。下山するときも急な坂や石があつて大
変でしたが、無事藤原園に帰りました。登山は大変でしたが、小学生たちはおもしろか

った、アスレチックみたいで楽しかったと満足した様子でした。(キャンプ最終日にキャンプがどうだったかアンケートを書いてもらいましたが、頂上で見た景色に感動した人が多く、「伝言ゲーム」が楽しかったという人もいました)

登山のあとはおやつにスイカを食べて、キャンプファイヤーで歌う歌の練習。この日はみんなキャンプになれたのか、登山がきっかけで力を合わせるようになったのか昨日より大きな声で歌っていました。また、キャンプファイヤーでやるスタンツ(劇や歌など出しもの)の準備。班ごとに話し合って練習しました。いいスタンツをしてくれることを期待しています。夕食ではこの日が誕生日の参加者の誕生祝いをして、その人は先生が作って下さった竹トンボや木のペンダントをもらいました。おめでとう。

8月10日(土): キャンプ3日目



今日は午前中、つりをしました。まずえさになるミミズをとりに行きました。くわで土をほって中にあるミミズをとります。くわを使うときはまわりの人に気をつけることを教わってミミズさがし。そしていよいよ釣り。班ごとにつりざおを順番に使ってキャンプ場の前の池で魚つりに挑戦! つれたら班全体で大盛り上がり。残念ながら

つれなかった人も楽しい時をすごしました。

昼食はキーマカレーとナン、サラダを作りました。ナンというのはインド料理でカレーといっしょに食べるパンみたいなものです。班ごとにナンの生地をのぼして形にしましたが、あついのもあればうすいのもあり、大きさもまちまちでなかなかいい形にならなかったようです。それでもキャンプ場にあるピザがまで焼くとおいしいナンのできあがり。キーマカレーといっしょにおいしくいただきました。3日目になると少しずつ料理になれて、包丁の使い方などを学んでいきました。この経験を通して料理に興味を持ち、できるようになってくれたらと思います。



昼食のあとはいかだ遊び。まず先生から、いかだに乗る時はライフジャケットを正しく着る、いかだの上で立たない、ふざけないなど安全に気をつけるよう教わりました。これをやぶったらその班はみんないかだに乗れません。きびしいけど、いかだなど水遊びは安全に注意しないと命にかかります。班ごとに順番に乗り、いかだをこぎました。なかなか思う方向に進まなかったけど、楽しいいかだこぎでした。いかだ遊びが終わった人はキャンプファイヤーのスタントの練習。まじめにやる子がいれば、遊んでいる子がいたり、けんかもしましたが、いいスタントをしようという気持ちでみんなまとまって、内容を決めて一生懸命練習していました。どの班も個性あるいい内容になっているようで夜のキャンプファイヤーが楽しみです。また、キャンプファイヤーで司会やレク係などいろいろな係になった人は先生に教えてもらって、係の役割や歌の歌詞やふりつけを覚えていました。係になった人もがんばってほしいです。

いよいよキャンプファイヤー。聖なる火を囲んで、みんなでこのキャンプで何を学び、感じたかまじめに考える時、そしてもり上がる時です。はじめにオープニングセレモニー。「遠き山に日は落ちて」をみんなで歌う中、聖火係の人がランタンを持って聖火台にみんなの友情と勇気、情熱と思いやりがこもった火を点火しました。つづいて営火長の宮本先生のお話。キャンプに参加した33人がここで会えた奇跡、協力しあってなかよくなったことをキャンプファイヤーでたしかめ、キャンプが終わった後も友情と勇気、情熱と思いやりを大切にしたいと願っています。

オープニングセレモニーの後はボンファイヤーでもり上がろう！レク係が歌やふりつけの説明をして、みんなで歌ったり、おどったり、ゲームを楽しみました。スタントではかえ歌を歌ったり、キャンプで起こったことを劇にしたり、キャンプのことをテーマにした俳句まで出てきました。どの班も練習のこいがあったいいスタントで、カウンセラーの先生が感動の涙を流す場面も。みんなこのキャンプで成長したなあ、と思う時でした。



この後はクロージングセレモニー。友情と勇気、情熱と思いやりがこもった火を各班長が営火長からうけとり、火にこめられた思いを大切に生きていくことをちかいました。最後はその火をみんなに分けあって「Believe」を歌いながら退場してキャンプファイヤーはおしまい。スタントでがんばった人、それぞれの係でキャンプファイヤーをもり上げるためにがんばった人、ごくろうさま。一つのことを最後までやりぬいたことは自信になったのではないのでしょうか。その自信を大切にしてください。これから学校や地域でがんばってほしいと思います。

8月11日(日): キャンプ最終日

いよいよキャンプ最後の日。朝食を食べた後は後かたづけ。使ったものをきれいに
してかたづけて、次に自分たちやほかの人が使う時に困らないようにしなければキャン
プは終わりません。



まず料理や食事に使った食器や調理器具を洗ってふい
て、全部きれいにしてもとの場所に返します。返す前は全
部きれいにしているかどうかチェック。少しでもよごれが
残っていたり、きちんとふけていなければ全部きれいにな
るまでやり直してもらいます。「えーっ！」とかきびしい
という声が多かったです。使ったものはきちんときれい
にしなければなりません。やり直しのあとはどの班も全部きれいにして食器や調理器具
を返しました。食器や調理器具を返した後はキャンプ場のそうじ、テントをたたんだり、
いすやテーブルをもとの場所にしまえます。後かたづけは面倒くさかったでしょうが、
料理など何でも使ったものはきちんとかたづけるまでが活動です。これをきっかけに物
を大切にする心、人への思いやりを持ってほしいと思います。

このキャンプではいろいろなことがありました。先生たちにしかられたり、おこられ
たりしたこともあったけど、活動は大変だったけど楽しかったという空気がみんなの中
に広がっていたと感じました。キャンプで立派な大人への道を確かに進んだのではない
でしょうか。終わりの会でスタンプの結果発表。内容と見る人を感動させたことで2班
が優勝、賞品として班のみんなでスイカわりができることになりました。保護者の方々
が見守る中でスイ
カわり。なかなか
われなかったけど、
カウンセラーの三
登先生が見事わり
ました。最後はみ
んなでチクサクコ
ール。みんなが一
つにまとまり、キ
ャンプをしめくく



りました。キャンプが終わりほっとした人、親に会えてうれしい人、キャンプのことを
親に話す人といろいろいて、それぞれ家に帰っていきました。この日みんなにキャン
プがどうだったかアンケートを書いてもらいましたが、キャンプでしたことはみんな楽し
かった、登山で見た頂上の景色や天体観測に感動した、料理作りなど仕事を通して自
分からすすんですることやほかの人と協力することの大切さを学んだ、いつも食事を
作ってくれるお母さんの苦勞がわかったと書いていました。キャンプにまた来たい、こ

れからも友達をふやしたい、キャンプで会った人とまた会いたいとも書いていて、このキャンプや自然から何かを感じたり、学んだりしたことがわかりました。みんなそれを忘れずに、これからも元気にすごしてほしいと願いながら、キャンプ日記を終わります。

自然体験キャンプを終えて

今年も3泊4日のキャンプをなみ滝藤原園で行いました。大変暑い中、熱中症など体調をくずす人やけが人が出ないだろうかと心配しましたが、大きな事故や病気、けがもなく無事終えることができました。

このキャンプでは子どもたちが「お客さん」になることなく、最初から最後まですべての活動に主体的に取り組むよう指導しています。テント張りや食事の準備・片づけ、いかだこぎ、キャンプファイヤーなどほとんどの活動がみんなで協力し合わなければできません。始めは自分から進んでしようという姿勢や班のまとまりがあまり見られなかったけど、次第に活動に慣れたこともあり、自分からしよう、みんなで力を合わせようという姿勢が出てきました。また、活動を楽しむ雰囲気も見られるようになりました。

登山はみんな頂上に登れるだろうかという心配もありましたが、みんなではげまし合って頂上に到着。達成感や感動を味わっただけでなく、登山の後は各班のチームワークがよくなり、他の活動も活発にするようになりました。いかだこぎでは水遊びの楽しさとともに水など自然のこわさ、団結することの大切さ（みんなで力を合わせないといかだが進まない）を学びました。はしやコップ作りでは刃物の安全な使い方や竹細工の技術、料理では道具の安全な使い方や料理を食べられることへの喜びや食材を作ってくれた人への感謝、食材を与えてくれた自然への敬いの心を持つことを学びました。植物の話や天体観測では自然の不思議さや奥深さを学び、感動しました。

キャンプファイヤーはこれらキャンプで身につけた心や姿勢を発揮し、交流を深める大切な場です。班のスタンプは何をするかなかなかまとまらなかったけど、次第にまとまり、ファイヤー本番ではみんないいスタンプを見せてくれて、キャンプで成長したと感じました。

このキャンプではいろいろなことがありました。楽しいことや感動したこともありますが、仕事をしないで遊んだり、けんかなど班の中でトラブルもありました。そんな時先生たちはみんなをしかったり、おこったりしましたが、ただおこっているのではありません。キャンプ、学校や家の中などみんなのふだんの生活の中でそんなことをしてはいけない、してはみんなが困ると思っ**て**きびしいことを言いました。自分のことは自分です、他の人と協力して何かをする、人がいやがることをしない、これらは今もそうですが、みんなが大きくなるにつれてもっと大切になりますし、必ず身につけなければなりません。キャンプを通してこういうことを学んで立派な大人になってほしい、立派に生きてほしいというのが私たちの願いです。

自然体験キャンププログラム

8月8日（木）

オリエンテーション <small>じゅんび</small> 準備		竹のは し・コップづ くり	<small>やがいりょうり</small> 野外料理 &昼食 ・そうめん ・ぶどう	<small>せつえい</small> テント設営 おやつ	<small>にゅうよく</small> 入浴	野外料理 &夕食 ・すき焼き どん 井 ・すまし汁	キャ ンプ レク レー ション	<small>てんたい</small> 天体 かんそく 観測	<small>しゅうしん</small> 就寝
	10:00	12:00	14:00	16:00	17:00	19:00	20:00	21:00	

8月9日（金）

ラジオ 体操 植物 の話 し	野外料理 & <small>ちようしよく</small> 朝食 ・ごはん ・味噌汁 ・野菜炒め	<small>こくうぞうざんとざん</small> 虚空蔵山登山 & 昼食 ・山賊むすび ・から揚げ ・炒めソーセージ	おやつ スタン ツ 練習	入浴	野外料理 & 夕食 ・ごはん ・ビーフシチュー ・マカロニサラダ	スタンツ 練習	就寝
7:00	9:30		15:00	16:00	17:00	19:00	21:00

8月10日（土）

ラジオ 体操 植物 の話 し	野外料理 &朝食 ・サンドイッチ ・コンスープ ・ヨーグルト	<small>つ</small> 釣り おやつ	野外料理 & 昼食 ・キーマカレー ・ナン ・野菜サラダ	<small>あそび</small> いかだ遊 び	おやつ スタン ツ練習	野外料理 &夕食 ・並滝な べ	キャ ンプ ファイ ヤー 練習	キャンプファイ ヤー	シャ ワー 就寝
7:00	9:00	11:00	13:00	15:00	16:00	18:00	17:30		

8月11日（日）

ラジオ 体操 植物 の話 し	野外料理 & 昼 食 ・ごはん ・味噌汁 ・ハムエッグ	<small>あとかたづ</small> 後片付け <small>てつしゅう</small> テント撤収 <small>せいそう</small> 清掃	昼食 ・おにぎり ・照り焼きチキン ・キュウリ ・ソーセージ	<small>お</small> 終わりの会 <small>わ</small> スイカ割り
7:00	9:30	14:00	14:30	

自然体験キャンプ指導スタッフ

ぜんたいしどう 全体指導	みやもとけんいち 宮本賢一			
活動指導	くりはらきょうこ 栗原恭子	おおのぶとしひろ 大信寿洋	にしむらひろし 西村広志	
うんえい 運営&活動指導	くにまさゆうや 國政悠也	わせだかずひろ 早稲田和宏	ささき 佐々木	ちえ 千恵
はん 班の指導	広島大学学生カウンセラー			
	ますだげんき 栂田元気	ほりかねつかさ 堀金 司	いけだあゆむ 池田歩夢	はらなな か 原菜花
	かじたり え 梶田梨絵			
てんもん 天文ガイド	よしだてるあき 吉田彰顕			

編集後記

子どもゆめ基金、保護者の皆様、キャンプに携わったスタッフ等、多くの方々のご理解とご支援を受け、今年も3泊4日の自然体験キャンプを無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

自然体験キャンプを実施するにあたり、6月には2日間の学生の研修を行いましたが、指導力不足を感じる点も多々ありました。最終日には、終了時間が当初の予定より約1時間遅れご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

キャンプ中、学生や当法人の若いスタッフは指導力不足を嘆き、また子どもの成長を喜び度々涙を流しておりました。子どもたちが来たときよりも成長して帰れるよう、もっと上手に指導できるよう毎晩遅くまでミーティングを行い翌日の活動に望みました。子どもたちが、キャンプファイヤーでいいスタンツができるよう、ミーティング終了後も試行錯誤していた学生もいたようです。そのかいあって、どの班も素晴らしいスタンツを披露してくれました。

自然体験キャンプは、子どもたちの成長はもちろんのこと、学生や若いスタッフにとっても有意義な活動であると改めて実感しました。来年も是非実施したいと強く願っております。

なお、この活動報告書のスタッフの日記は、当法人の西村広志自然観察指導員によるものです。